



広島地区活動報告

(2005年～2024年)



特定非営利活動法人ひろしま自然学校

はじめに

ろうきん森の学校広島地区は、2025年3月に開校20周年を迎えました。長い間放置され荒廃していた里山を7人の地権者と1つの団体（水利組合）から借用し、志ある方々とNPOが協働で里山の再生・保全・活用に取り組んできました。

「継続は力なり」と言われますが、この20年の取組で里山は見違えるほど整備され、今や毎年3,000人以上の人が訪れる素敵なフィールドとなりました。

森の学校を利用する方のニーズは多様です。定年退職後の生きがいづくりをしたい、生き物好きで生き物とふれあう場所がほしい、我が子を自然の中で育てたい、ボランティア活動に参加して自身の健康増進に役立てたい、日常の喧騒から離れてリフレッシュしたい、学生のフィールド実習の場にしたい、企業の人材育成研修の場として利用したい…など多様なニーズを持つ人たちが、そのニーズに応じて里山の恵みを享受することで自身のウェルビーイング（人生を豊かにするために必要な資本）を高める場になっているのです。

また、整備された里山は人間だけでなく里山にすむさまざまな生き物にとっても良い影響を与えています。里山整備と並行して取り組んできた生物調査の結果では、これまでに1,800種以上の生き物を記録し、生物多様性保全の貴重な場所になっていることがわかりました。

これらの実績が認められ、2024年10月には環境省認定の「自然共生サイト」に登録することができました（P18参照）。

20周年の節目を迎えるにあたり、これまでの取組を総括する過程で「みんなのさとやま（さとやまコモンズ=共有財産）」という新たなコンセプトが生まれました（P20参照）。森の学校は「すべての人々の共有財産であると同時に、里山にすむすべての生き物にとっての共有財産でもある」。そんな場づくりを森の学校に集う皆さんとともに推進することで、人間も他の生き物たちもみんなが幸せになれる「さとやまコモンズ自然学校」を目指していきたいと思えます。

20年間、森の学校の活動を支援いただいた地元のみなさま、地主のみなさま、中国労働金庫や広島県労働者福祉協議会をはじめとした関係者のみなさま、そして森の学校をさまざまな形で利用してくださったみなさまに心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人ひろしま自然学校

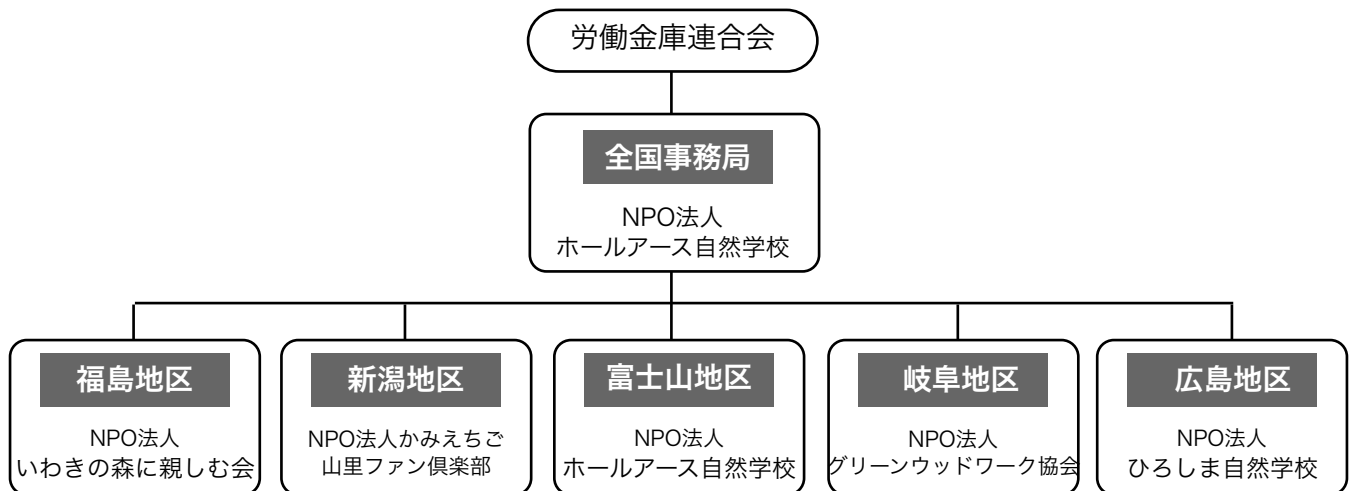
目 次

I	プロローグ ろうきん森の学校広島地区の概要.....	1
	1 基本構想.....	1
	2 対象地の概要.....	1
II	20年間の活動実績.....	3
	森を 育む 平日隊を中心に延べ9,467人が参加.....	4
	1 基礎インフラの整備実績.....	5
	■看板の設置.....	5
	■トイレ.....	5
	■作業小屋.....	5
	■研修棟（こぞってハウス）.....	5
	■石窯・炊飯場・シンク.....	6
	■焚き火場.....	6
	■ビオトープ・たたら遺構看板.....	6
	■管理棟・アースエデュケーションハウス.....	6
	2 散策路の整備実績.....	7
	3 森林の整備実績.....	7
	4 動植物調査実績.....	8
	人を 育む OJT型人材育成の仕組みが定着.....	9
	1 人材育成の実績.....	10
	■プレイリーダー養成講座.....	10
	■コミュニティワーカー・トレーニング.....	10
	■アースキーパーズ・トレーナー養成.....	11
	■SDGsユースラボ.....	11
	■デジファブ活用促進指導者養成講座.....	11
	森で 遊ぶ 幼児から大人まで多彩なプログラムを開発！.....	12
	1 プログラム開発・実践の実績.....	13
	■森の妖精くらぶ.....	13
	■里山くらぶ.....	13
	■里山フリーキャンプ.....	14

■アースキーパーズ.....	14
■きたひろパン研究会.....	15
■森のカフェ.....	15
■大人の自然学校（リトリートキャンプ）.....	16
■森の学校フェスティバル.....	16
■ものづくりマルシェ.....	17
■森のフリースクール.....	17
■企業研修.....	17
III 20年の成果～環境省「自然共生サイト」の認定取得.....	18
IV エピローグ～ろうきん森の学校広島地区のこれから～.....	19
1 「さとやまコモンズ自然学校」が求められる背景.....	19
2 「さとやまコモンズ自然学校」のコンセプト.....	20
3 「みんなのさとやま研究所の立ち上げ」.....	20

I ろうきん森の学校広島地区概要

ろうきん森の学校は、労働金庫連合会の設立50周年記念事業として2005年に福島、富士山、広島地区でスタートしました。第2期となる2015年からは、新潟、岐阜の2地区が加わり全国5地区での展開となり、2025年3月で満20周年を迎えました。広島地区は、2005年の開校以来、特定非営利活動法人ひろしま自然学校が運営しています。



1. 基本構想 (労働金庫連合会資料から抜粋)

無秩序な経済活動や人口の増加などにより、気象の異常、森林や生態系の破壊などが起こり、「人々が喜びを持って共生」するための大前提となるべき地球環境が脅かされています。労働金庫連合会は、「ろうきんの理念」に謳う経済・福祉・環境・文化の四分野のうち、勤労者の生活に密着した金庫活動領域の基礎条件をなす「環境」分野を主たるテーマとして50周年記念社会貢献活動を展開します。

さらに「環境」分野の中でも

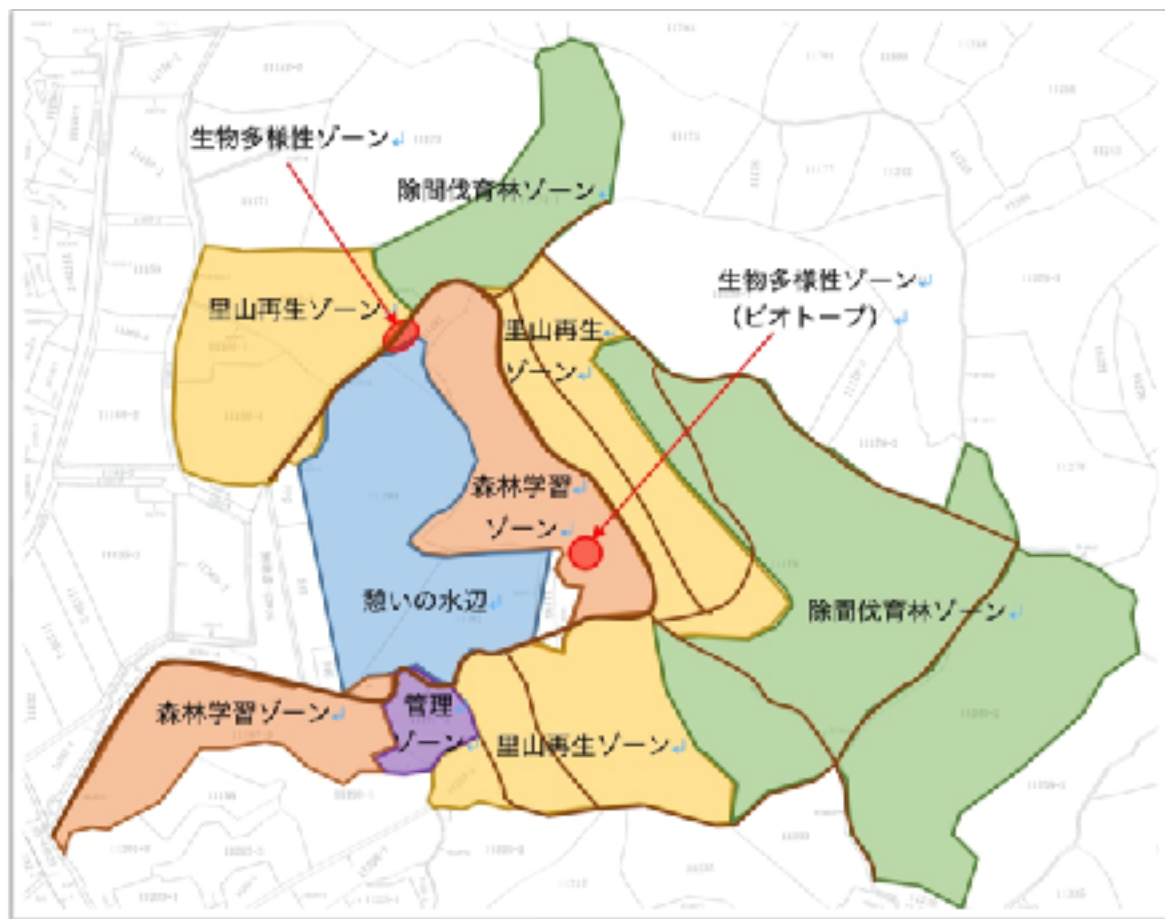
- ① 厳しい環境の中で働く勤労者に精神的な安らぎを与える「緑」
- ② 身体を動かす喜びと「健康の維持」
- ③ 「地球環境保全」への共感と参画

の3点をコンセプトに事業を行うものとします。

以上のコンセプトに従い、幅広い人々が参加できる「里山再生」活動を「環境教育」に主眼を置いて行います。また、本記念活動終了後も幅広い分野で環境問題の解決に取り組む「人づくり」を主眼に置いた「森の学校」づくりをめざします。

2. 対象地の概要

ろうきん森の学校広島地区は広島県山県郡北広島町今吉田地区にあります。地域内最大の農業用ため池「万代池」(約2ha)とその周辺の里山(約9ha)が対象地で、クリ、コナラを中心とした雑木林、アカマツ林、スギ・ヒノキの人工林で構成されています。2005年に8人の地権者・団体からひろしま自然学校が借り受け、ゾーニング計画を策定して整備・活用を推進してきました。対象地内には、中世たたら製鉄の遺構が数多く残っており、昔の中国山地の文化や生活を垣間見ることができます。



【対象地ゾーニング概要】

■里山再生ゾーン

松枯れ、ナラ枯れの著しい進行が見られます。管理ゾーン周辺において枯損木の伐倒を集中的に実施し、その他のエリアについては毎週実施しているボランティアによる整備作業の中で必要に応じて伐倒作業を行います。

■生物多様性ゾーン

このゾーンにはカザグルマの自生地があります。また、ビオトープ池が整備されており、カエルなどの両生類や水生昆虫の生息場所となっています。現在、水辺の食物連鎖の学習に最適の場所となっており、定期的な整備など行わず、現状の自然の状態を維持するよう努めます。

■森林学習ゾーン

自然体験や環境学習のフィールドとして活用しています。20年間の生物調査結果を活かした生物多様性学習のための環境教育教材の活用や地球生態学的概念を学習する特徴的な環境教育、自然体験活動などを展開します。

■除間伐育林ゾーン

70年生のスギ、35年生のヒノキ、15年生のヒノキとケヤキの針広混交林があります。特に35年生のヒノキの間伐が進んでいないため、このエリアの間伐を中心に整備します。

■憩いの水辺

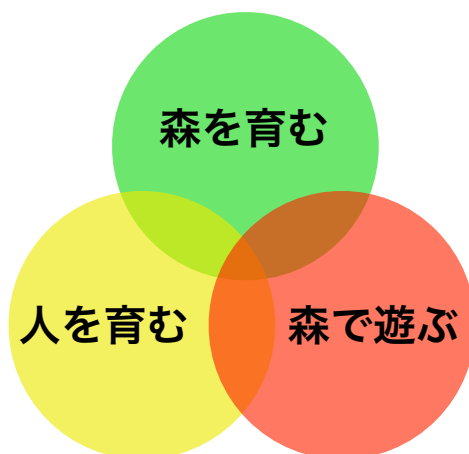
このゾーンにある万代池は地域最大の農業用のため池で防火用水としても利用されています。水鳥や魚類、カエル類、トンボ類など水生動物の生息場所となっており、生物の多様性が豊かな場所です。また、自然体験活動ではカヌーなどの水辺の体験活動などに利用されています。万代池を一周する散策路は池の水による侵食で崩落するケースがあるため、崩落箇所の修復作業や散策路の草刈り作業は定期的に行いますが、それ以外は基本的に手をつけず水生動物の生物多様性を担保していきます。

Ⅱ 20年間の活動実績

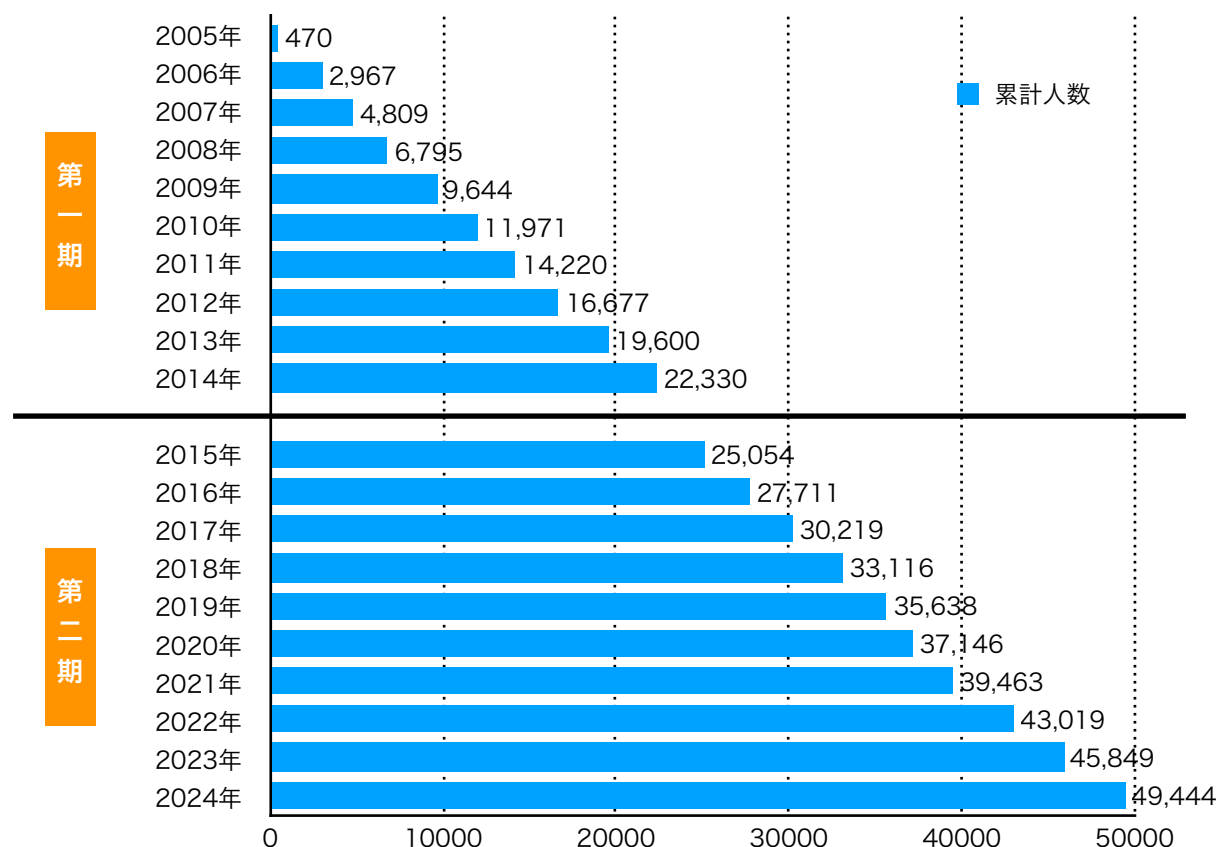
2005年の開校以来、「森を育む」「人を育む」「森で遊ぶ」の3つのキーワードで活動を展開してきました。

活動開始当初は基礎インフラの整備等に時間を費やしたため、利用者が伸びませんでした。5年目以降は毎年3,000人前後の利用者数で安定し、20年間で延べ49,444人の利用がありました。

【活動の3つのキーワード】



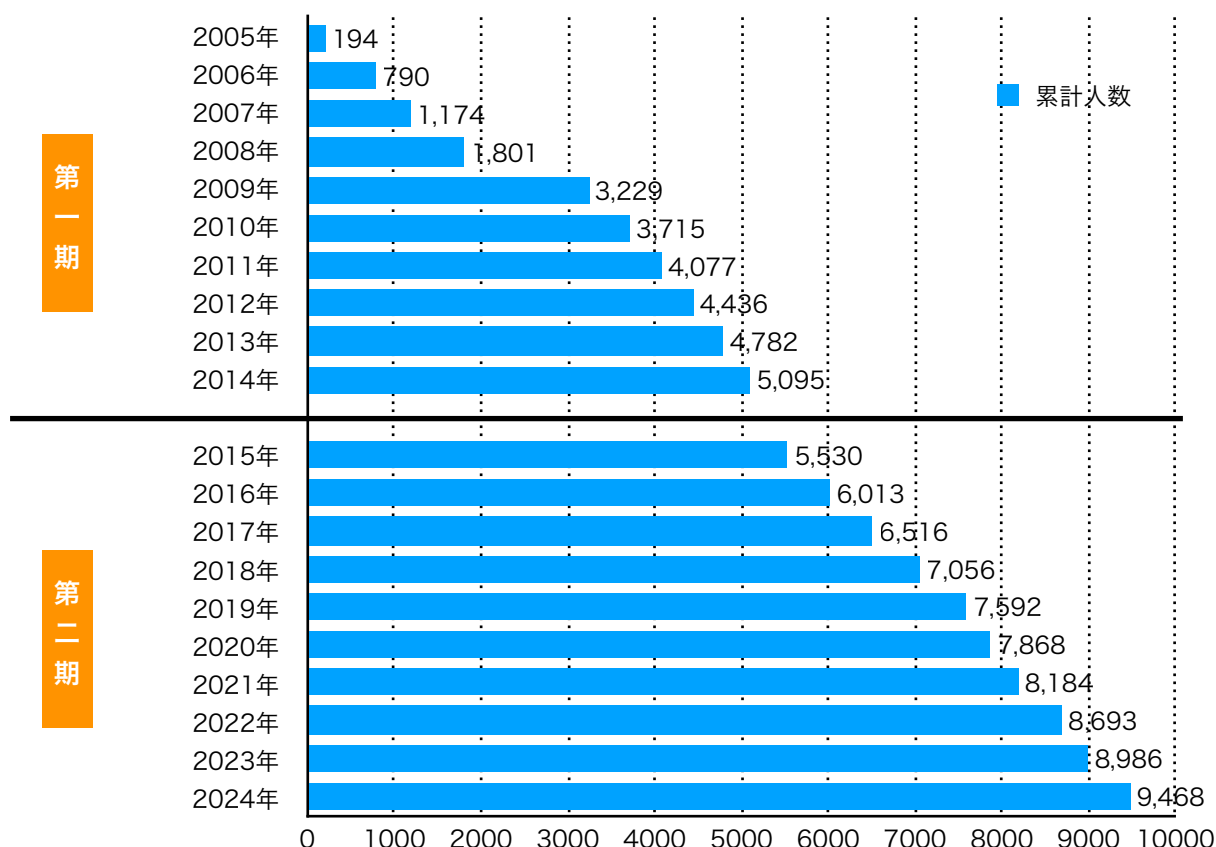
ろうきん森の学校広島地区利用者数（累計）



広島地区の活動は、基礎インフラが全くない荒廃した里山を地主から借り受けてスタートしました。このため、活動の初期段階では、水道、電気、施設整備などのインフラ整備に多くの時間をかけることが必要でした。

活動開始後3年目頃から、次第に森の整備、散策道づくりなどに力を注ぐことができるようになりましたが、これらの作業の多くの部分を担ったのが「平日作業隊」と呼ばれる定年退職者の作業グループです。平日作業隊は、毎週木曜日に作業を行っていますが、1回あたりの従事者は5～6人と少人数です。動植物の愛好家を中心に、午前中に作業を行い、午後は自然観察や動植物調査などを主に担ってきました。20年間で延べ9,468人が「森を育む」活動に従事し、今では見違えるほど整備された里山になっています。

「森を育む」従事者数（累計）



1 基礎インフラの整備実績

メイン看板の設置、道具小屋1棟、作業小屋1棟、研修施設1棟、トイレ3棟、井戸、合併浄化槽、シンク、石窯、焚き火場、ビオトープ、たたら遺構解説板、テントサイト、管理棟、アースエデュケーションハウス、カヌー小屋 など

■看板の設置



■トイレ



■作業小屋



■研修棟（こぞってハウス）



■石窯・炊飯場・シンク



■焚き火場



■ビオトープ、たたら遺構看板



■テントサイト



■管理棟、アースエデュケーションハウス



2 散策路の整備実績

総延長約5.5km

万代池周回コース：1km、展望エリアコース：2km、森林学習ゾーンコース：2km、
里山再生ゾーンコース：0.5km



3 森林の整備実績

総整備面積：約9ha

- 人工林：スギ（70年）→中間木を残して除間伐、ヒノキ（35年）→間伐、枝打ち
- 雑木林：アカマツ・コナラの二次林→枯損木の除去、間伐
- 植 林：約1haにヒノキとケヤキの苗を植え、針広混交林として育林
※森林整備の一部には、広島県の環境税を整備費として充当



4 動植物調査実績

調査実績

- 動物：哺乳類14種、鳥類96種、蛾類866種、チョウ類62種、トンボ類35種、その他の昆虫約200種以上、は虫類11種、両生類9種、クモ類69種
- 植物：木本52種、草本363種、シダ類48種以上



【施設整備年表】

年月	内 容	備 考
2005.08	・ NPO設立	
10	・ 森の学校入り口看板設置	
10	・ 森の学校地区連絡協議会発足	
2006.03	・ トイレ棟完成	
	・ 物置小屋プレハブ設置	
04	・ 浄化槽設置	
06	・ 作業小屋完成	
08	・ シンク、水場完成	
10	・ 石窯完成	
2010.03	・ 森の教室「こぞってハウス」完成	
05	・ 森の教室「こぞってハウス」完成記念講演会	
06	・ 森の教室「こぞってハウス」オープン記念映画上映会	
2015.04	・ 第2期森の学校土地再契約	
06	・ 森の学校広島地区10周年記念行事開催	
2016.03	・ 新事務所完成（旧事務所プレハブ撤去）	
2019.10	・ アースエデュケーションハウス完成	
2020.05	・ シャワールーム完成/簡易宿泊施設登録	
2021.12	・ 飲食業免許取得	

森林整備技術や自然体験活動指導技術の向上を目指して、継続的な人材育成に取り組み、20年間で延べ5,654人の参加がありました。

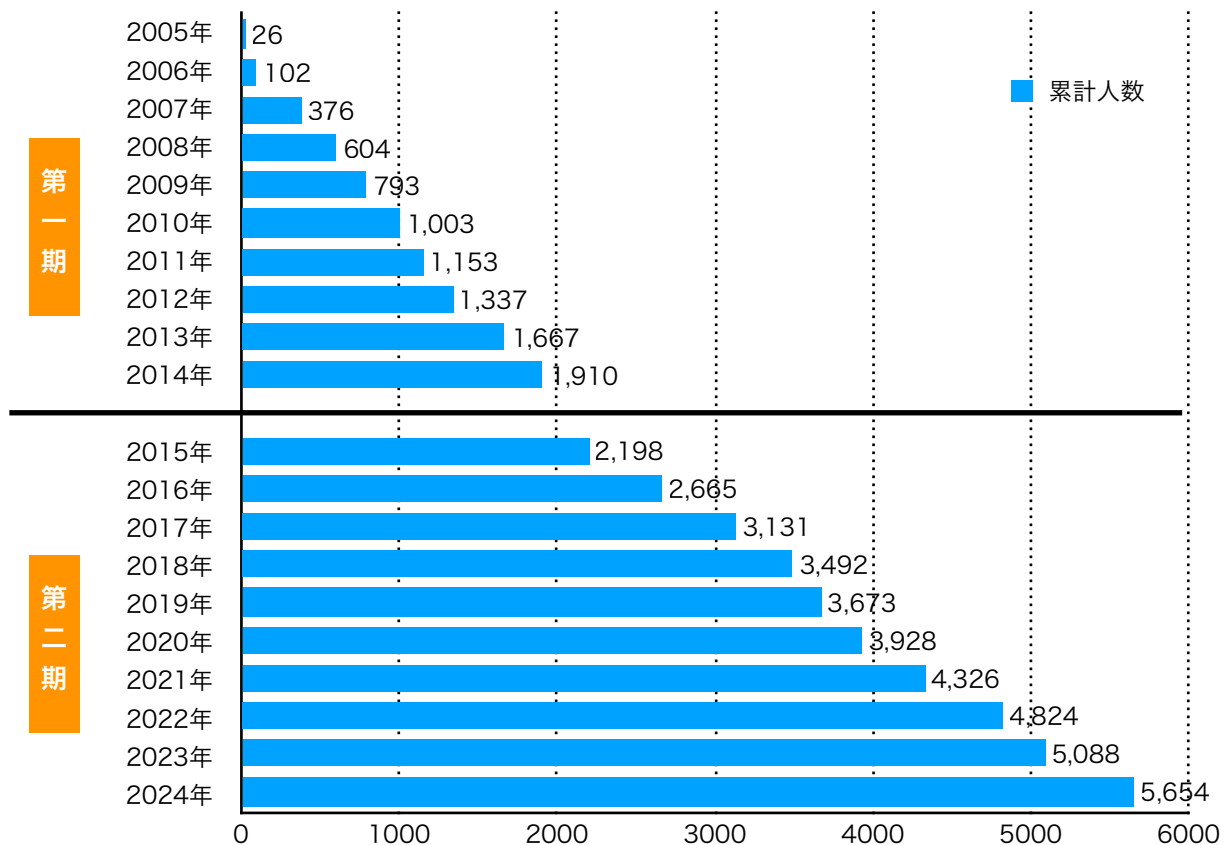
大学生を対象とした「プレイリーダー養成講座」では、毎年春期休業中に2泊3日の集中トレーニングを行い、その後森の学校のプログラムに実際に携わる経験を通して技術の向上を図る「OJT型人材養成」が定着しています。

日本で唯一のトレーニングセンターとして認定されているアースキーパーズ（地球教育）のトレーナー養成にも開校以来力を注いできました。

その他、持続可能な地域づくりを推進するキーパーソンとして「コミュニティ・ワーカー」の養成講座を2010年以降延べ30回以上開催し、「SDGsユース・ラボ」を2022年から開始し若者が中山間地の社会課題解決に取り組む実践的な人材育成にも取り組んでいます。

また、2023年には豊平どんぐり村内の遊休施設（旧豊平歴史民俗資料館）にデジタルファブリケーションの工房を開設し、間伐材などを活かしたものづくりを推進する目的で「デジタルファブ活用促進指導者養成講座」を開始しました。

「人を育む」利用者数（累計）



1 人材育成の実績

主なプログラム実績

プレイリーダー養成講座、コミュニティワーカー・トレーニング、アースキーパーズトレナー養成、SDGsユース・ラボ、森のようちえん指導者養成講座、デジファブ活用促進指導者養成講座など

■プレイリーダー養成講座

大学生を中心に子どもの自然体験を支援するリーダー養成講座。安全管理、コミュニケーションスキル、アウトドアスキルなどを体系的に学ぶだけでなく、年間を通じて子どもの体験活動にかかわる場が準備されているOJT型で実施。



■コミュニティワーカー・トレーニング

地域を元気にする仕掛け人に必要な企画能力、ファシリテーション能力、評価能力などについてワークショップ型で体系的に学ぶ人材育成研修。



■アースキーパーズ・トレーナー養成・・・・・・・・・・・・・・・・

環境教育のオルタナティブとしてアメリカで生まれた「地球教育」プログラムの1つである「アースキーパーズ」を2006年に開始。以後、毎年定期的に指導者（トレーナー）のトレーニングを実施。



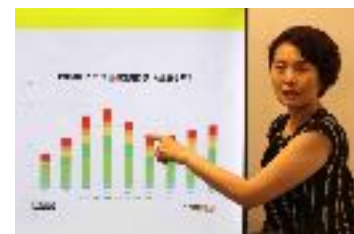
■SDGsユース・ラボ・・・・・・・・・・・・・・・・

北広島町内のフィールドワークを通じて中山間地域の社会課題を分析し、持続可能な地域づくりに貢献するプロジェクトを企画・実践する若者を対象とした人材育成講座。



■デジファブ活用促進指導者養成講座・・・・・・・・・・・・・・・・

レーザーカッター、3Dプリンター、CNCルーターなどを活用したものづくりに携わるオペレーターの養成を目指して、2023年から新規事業として展開。



里山を活用した自然体験や環境教育プログラムの開発・実践に取り組みました。

幼児とその保護者を対象にした「森の妖精くらぶ」では、広島女学院大学、広島文教大学との連携を深め、幼児教育を専攻する学生の実習の場として定着しました。

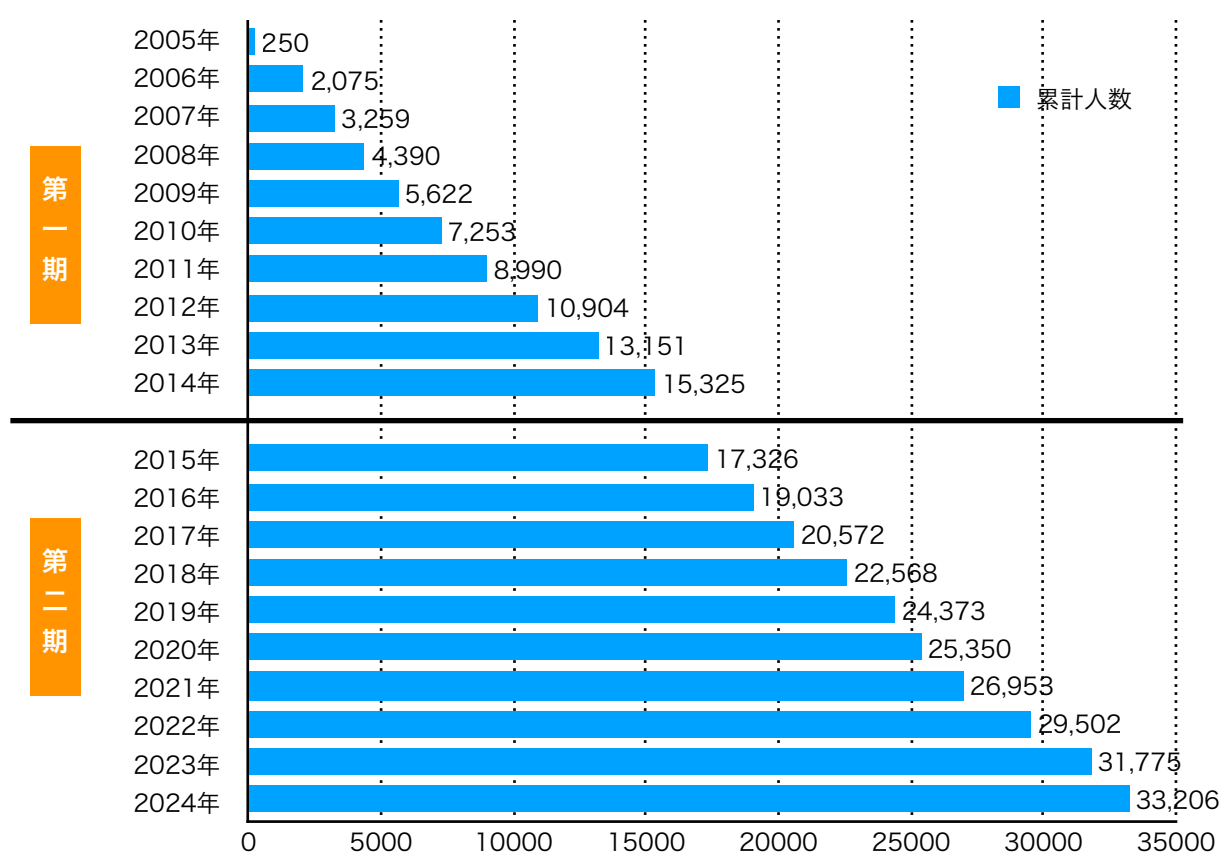
小中学生を対象にしたプログラムは、森の学校で最も多彩で充実しています。中でも夏期休業中に実施している14泊15日の長期自然体験「里山フリーキャンプ」は森の学校の看板メニューとして人気のあるプログラムです。また、アメリカで開発された地球教育プログラムの一つ「アースキーパーズ」の実践は、日本で初めての取組として注目されています。2022年からは毎週火曜日に「森のフリースクール」を開始し、学校教育以外のオルタナティブな学びの場づくりにチャレンジしています。

2023年には、豊平どんぐり村内の遊休施設（旧豊平歴史民俗資料館）にデジタルファブリケーションの工房を開設し、木工を中心としたものづくり機能の充実を目指しています。

また、広島県労働者福祉協議会、中国労働金庫と協働で開催する「森の学校フェスティバル」は、毎年200人余りが参加する一大イベントとなっています。

近年では毎年2,000人以上のプログラム利用者があり、20年間の利用者は延べ33,206人となっています。

「森で遊ぶ」利用者数（累計）



1 プログラム開発・実践の実績

主なプログラム実績

森の妖精くらぶ、里山くらぶ、アースキーパーズ、里山フリーキャンプ、森のカフェ、ファミリーキャンプ、森のフリースクール、きたひろパン研究会、きたひろごはん、ものづくりマルシェ、大人の自然学校、森の学校フェスティバル、企業研修など

■森の妖精くらぶ

未就学児童と保護者を対象に森の幼稚園を開催。広島女学院大学、広島文教大学と連携し、幼児教育を学ぶ大学生の実習の場として定着している。



■里山くらぶ

小学1年生から参加できる通年型デイキャンプ。季節ごとの特徴的な自然体験メニューのほか、子どもたちが自由に企画して過ごす時間を設け、子どもの自発性、自律性を培う場となっている。



■里山フリーキャンプ

小学3年生から中学3年生を対象にした14泊15日の子どもキャンプ。森の学校開校以前の2000年から実施している人気プログラムで、当初は町内の小学校の廃校を拠点に開催していたが、2021年からは「里山フリーキャンプ」として森の学校へ会場を移して実施。



■アースキーパーズ

アメリカで開発された地球教育プログラムの1つで、小学校5年生を対象に3ヶ月間かけて地球について学ぶ。日本ではひろしま自然学校でしか実施されていない貴重なプログラム。近年は地元豊平小学校5年生の総合学習として定着。



■きたひろパン研究会

森の学校周辺の耕作放棄地を借用して、小麦を植える、育てる、収穫する、製粉する、料理して食べるという生産から消費までを体験する食育プロジェクト。



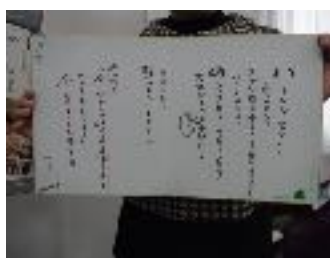
■森のカフェ

季節ごとのアウトドア料理を楽しみながら、ゆったりとした1日を過ごす家族向けプログラム。



■大人の自然学校（リトリートキャンプ）

リラックス、リフレッシュ、リフレームの3Rをキーワードに、森の学校の豊かな自然の中で非日常的な体験を通して、自分自身を再編集する合宿型の研修。



■森の学校フェスティバル

広島県労働者福祉協議会、中国労働金庫との協働事業。年1回森の学校を開放して多くの市民の方に森の学校を知ってもらうためのイベントを開催。



■ものづくりマルシェ

豊平どんぐり村内に開設したデジファブ工房を拠点に、デジタル機器を使ったものづくりの普及啓発活動としてイベント的に開催。



■森のフリースクール

学校教育以外のオルタナティブな学びの場づくりとして、2022年から毎週火曜日にフリースクールを開校。



■企業研修

企業や企業の労働組合による研修の受け入れ。整備された里山での非日常体験や環境ボランティア体験、チームビルディングなどのプログラムを提供している。



Ⅲ 20年間の成果～環境省「自然共生サイト」の認定取得～

2024年10月にひろしま自然学校の活動フィールドが、生物多様性を保全する環境省「自然共生サイト」（2024年度前期）に認定されました。20年に及ぶ里山の生物調査と保全活動の実績が、生物多様性保全を進める時代の流れに相まって、評価されたといえます。

自然共生サイトとは

自然共生サイトは、企業、団体・個人や自治体などの取組によって、生物多様性の保全が図られている区域を申請し、審査を経て環境省が認定するものです。この区域は、保護地域との重複を除き、“OECM(Other Effective area-based Conservation Measures)”として国際データベースに登録されます。生物多様性の損失をくい止め、人と自然の結びつきを取り戻すことは、世界的に優先度の高い環境問題の解決策です。

認定のポイント

ため池を囲む約10haのアカマツ林とコナラの雑木林という広島に典型的な里山で、2005年から調査保全活動を重ねて生物多様性を明らかにし、2008年からは環境省「モニタリングサイト1000里地調査」にも加わり、27の希少種を含む1,800種以上を確認しています。企業や団体の支援を受けて市民参加で整備したフィールドを、自然体験や環境教育、人材育成などに活用し、年間 3,000人以上が訪れ、その数は20年でのべ 5 万人近くに及びます。

関連セミナーの実施

自然共生サイトを申請するにあたって、2024年3月にホールアース自然学校から講師を招聘して、自然共生サイトをテーマにセミナーを開き、全国的な動向や静岡での取組みをうかがうと同時に、申請のノウハウを教わりました。さらに、1年後の2025年3月には、認定記念セミナーとして、「自然共生サイトその先へ～さとやまコモンズの未来を語ろう！～」というテーマで、認定の報告と共生サイトの活用可能性に関する事例紹介、さとやまコモンズのコンセプト紹介をして、参加者がそれぞれの活動の展開を考えるワークショップを開催しました。これらのセミナーをきっかけに、生物多様性保全に取り組む近隣の団体や関係者との連携もつくれました。

今後の展開

自然学校はこの認定をきっかけに生物多様性保全の実績を見直し、その強みを活かした活動展開を考えています。自然学校のある北広島町は、中国地方で唯一「生物多様性保全地域戦略」を有しており、町の計画として2030年までに自然共生サイトを10ヶ所にする目標も立てています。近隣の里山保全活動の促進に、当団体が貢献できればと思います。

また、ネイチャーポジティブ講座として、自然学校のノウハウを整理して伝え、新たな担い手を育て、近隣の関係者と連携する教育機会も設けていきたいと考えています。

Ⅳ ろうきん森の学校広島地区のこれから

ひろしま自然学校の活動フィールドの里山は、7人の地権者と万代池の水利組合が所有する土地を10年単位で借り受けています。その里山を整備して、年間3,000人以上が訪れる自然学校として活用を続けてきました。20年間の累計でボランティアがのべ9,000人以上、参加者が40,000人以上になります。近隣の地域だけでなく、市街地や県内各地から通う人も多く、目的はレジャーだけでなく、学びやボランティア活動などさまざまです。

多くの人がこの里山での体験に価値を感じて、活用していることは、里山がさまざまな人に開かれた「コモンズ」すなわち共有地であるということです。

1. 「さとやまコモンズ自然学校」が求められる背景と社会課題

里山の人口流出と荒廃

自然学校の開設から20年、里山をめぐる課題は大きく変わりませんが、その深刻さは増えています。中国地方の中山間地は、全国的に見ても高齢化や人口減少が特に進行しているエリアです。かつては人々の暮らしと結びついていた里山が、多く放置されて荒れています。地権者の高齢化や不在の山林が増え、管理には限界があり、新たなしくみが求められています。

生物多様性の喪失と自然との断絶

自然に人の手が入った里山は多様な生き物のすみかとなっています。近年、全国的な里山の自然調査の結果から、典型的な里山の生物種が激減していることが明らかになってきました。生物多様性の喪失は、地球規模でも緊急性のある環境問題の1つとされ、日本でも官民あがての生物多様性保全の動きが活発化しています。

私たちの日々の生活も自然の恩恵なしには成立しませんが、都市化などで自然との隔たりが大きくなり、直接自然と関わりを持たない日常を送っています。生物多様性の喪失も、自分ごとと捉えにくい社会状況があります。

自然体験の機会の減少

都市部に限らず中山間地でも、自然の中で遊ぶ子どもはコロナ禍を経て特に減っています。ゲームやスマホなど、屋内で安全に遊ぶツールが普及して、自然体験もバーチャル世界でふれる機会が増えました。五感を使って本物の自然にふれる経験が著しく減っており、自然や生き物に対する過剰な不衛生感や恐怖を感じる人が増えました。

今後さらにAIが普及して、人間らしい思考や判断ができる人を育てるには、非認知能力や情操を育む自然体験や人とのコミュニケーションなどの直接体験の重要性がさらに高まっています。

資源循環と持続可能な暮らし

化石燃料が普及する前の里山には、自然資源を循環させながら衣食住を生み出す、持続可能な生活スタイルがありました。その暮らしの知恵を知る高齢者も減ってその文化が消えかけています。国際情勢の不安定化で価格高騰が進む昨今、地域内の循環で自給

率を上げる必要があります。地域の里山の知恵を受け継いでわかちあい、外部資源に依存しない、地産地消の暮らしを模索する、実験の場が求められています。

すなわち「さとやまコモンズ自然学校」は、自然・地域・人・暮らしを“つなぎなおす”ために必要な、実践と学びのハブです。

2. 「さとやまコモンズ自然学校」のコンセプト

みんなの里山で、まなんで・まもって・つかっていく。

「さとやまコモンズ自然学校」は、生き物も人もみんなの大切な“いばしょ”。みんなを守り、未来につないでいく“里山”をフィールドに、自然との関わりや持続可能な暮らしの知恵を実験的に学ぶ場です。

いろんな人が関わるこの場では、「まもる」「まなぶ」「つかう」という3つの柱のもとに、自然と人、暮らしと社会のつながりを見つめ直し、大きな気づき生み出します。森を歩き、手を動かし、対話から考えることで、コモンズとしての新たな里山の可能性をふくらませましょう。

■まなぶ～自然体験から学び 里山の価値に気づく～

一般的な学校教育や環境教育の限界に対する“オルタナティブな学び”の場を提供します。さまざまな人が参画して対話から生み出す“ワークショップ的な学び”の場を大切にします。

■まもる～里山の生態系を 見守りながら手入れする～

市民参加で専門家を交えた生物調査を継続しながら、生物多様性を守る手入れをします。ボランティアや企業団体や地域との協働で、ウェルビーイング的な保全活動を実践します。

■つかう～里山の恵みを活用する ライフスタイルへ～

自然資源を活用するものづくりや、自然と調和した循環型の拠点づくりを実践します。自然の恵みを実感して里山ファンを育てるレジャーやイベントの機会を設けます。

3. 「みんなのさとやま研究所」の立ち上げ

以上のような、さとやまコモンズ自然学校の実現に向けて、今後NPO内部に「みんなのさとやま研究所」を立ち上げ、幅広い参加者層の多面的なニーズに答える自然学校の運営を目指します。

ろうきん森の学校広島地区活動報告(2005年～2024年)

発行年月 2025年7月
発行・編集 特定非営利活動法人ひろしま自然学校

〒731-1221 広島県山県郡北広島町今吉田1197
ホームページ： <https://hs-gakko.org/>
